

令和3年度

真岡市教育委員会
点検・評価報告書

真岡市教育委員会

はじめに

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年4月1日から施行されました。

その中で教育委員会は、毎年、教育行政の事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

このため本市教育委員会においても、教育委員会の活動及び主たる取り組みを市民の皆様に公表し、ご意見をお寄せいただくことで、より良い教育の実現を目指していきたいと考えています。

令和3年8月
真岡市教育委員会

目次

第1章	教育委員会活動	1 P
第2章	点検・評価結果	9 P
1.	確かな学力の育成	10 P
2.	心の教育と健やかな体づくり	12 P
3.	国際化に対応した教育	14 P
4.	生涯学習の推進	16 P
5.	青少年の健全育成	18 P
6.	生涯スポーツ・レクリエーションの振興	20 P
7.	文化芸術の振興と文化財の保護・継承	22 P
8.	国際交流の推進	24 P

第1章 教育委員会活動

1 組織体制（令和2年4月1日現在、7課合計）

教育委員	教育長1人、職務代理者1人、委員3人
教育委員会職員	教育次長1人 課長級以下職員 正規89人（指導主事等14人）、 会計年度任用職員37人 再任用 2人

2 委員会の活動概要

(1) 委員会の会議

議案審議のための定例会を13回、臨時会を3回開催しました。また、会議終了後、その時々話題について事務局職員（課長級以上）と意見交換を行いました。

定例会・教育委員協議会		議案件数	報告事項件数	その他
定例会	13回	45件	45件	26件
臨時会	3回	7件	1件	1件

教育委員会審議案件（令和2年度）

会議	議案番号	件名	審議期日
3回 (臨時)	22	新型コロナウイルス感染症に係る学校等の対応について	4月7日
4回	23	令和2年度真岡市奨学生の決定について	4月24日
	24	新型コロナウイルス感染症に係る対応について	
5回 (臨時)	25	新型コロナウイルス感染症対策緊急支援奨学生募集要項の制定について	5月1日
	26	夏季休業の短縮による授業時間の確保及び、今後想定される臨時休校延長への対応について	
6回	27	今後の学校再開について	5月18日
	28	教育情報セキュリティポリシーの策定について	
	29	工事変更請負契約について	
	30	令和2年度真岡市一般会計補正予算について	

7回	31	令和2年度真岡市一般会計補正予算について	6月19日
	32	真岡市立小・中学校管理規則の一部改正について	
	33	コロナに負けるな！もおか学生応援奨学金奨学生の決定について	
	34	真岡市少年指導員の委嘱について	
	35	真岡市少年指導センター運営協議会委員の委嘱について	
	36	真岡市民会館運営審議会委員の委嘱について	
8回 (臨時)	37	真岡市立小・中学校管理規則の一部改正について	7月1日
	38	真岡市社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱について	
	39	真岡市少年指導員の委嘱について	
	40	令和2年度真岡市一般会計補正予算について	
9回	41	令和3年度使用教科用図書の採択について	7月28日
	42	真岡市立図書館協議会委員の委嘱について	
	43	真岡市総合体育館等の設置、管理及び使用条例の一部改正について	
	44	真岡市総合体育館等の設置、管理及び使用条例施行規則の一部改正について	
	45	真岡市地域体育館の設置、管理及び使用条例の一部改正について	
	46	真岡市地域体育館の設置、管理及び使用条例施行規則の一部改正について	
10回	47	令和2年度真岡市一般会計補正予算について	8月20日
	48	真岡市少年指導センター設置条例の一部改正について	
	49	コロナに負けるな！もおか学生応援奨学金奨学生の決定について	

11回	50	公職選挙法第161条第1項の規定による個人演説会等開催のために必要な施設の程度及び公職の候補者等が納付すべき費用の額を定める告示の一部改正について	9月17日
	51	真岡市総合体育館等の設置、管理及び使用条例施行規則の一部改正について	
	52	真岡市運動場設置、管理及び使用条例施行規則の一部改正について	
12回	53	真岡市教育委員会教育長の職務代理者の指定について	10月1日
	54	第67回真岡市教育祭被表彰者の決定について	
13回	55	第67回真岡市教育祭被表彰者の決定について	10月29日
14回	56	令和2年度真岡市一般会計補正予算について	11月19日
	57	GIGA スクール小中学校学習者用端末機の取得について	
15回	58	真岡市教育委員会規則で定める様式に係る押印の省略の特例に関する規則の制定について	12月21日
	59	真岡市教育委員会告示で定める様式に係る押印の省略の特例に関する要綱の制定について	
	60	真岡市立小学校における重大事態に対する第三者委員会調査報告書について	
1回	1	真岡市立図書館並びに真岡市立二宮図書館の設置及び管理条例施行規則の一部改正について	1月27日
	2	真岡市公民館分館図書室利用規則の一部改正について	
	3	令和3年度の自然教育(老人研修)センターについて	
	4	令和3年度からの真岡市科学教育センターについて	
2回	5	令和3年度教育予算の要求について	2月16日
	6	令和2年度真岡市一般会計補正予算について	

3回	7	真岡市教育委員会事務局及び機関の組織等に関する規則の一部改正について	3月11日
	8	行政機構の改編に伴う関係教育委員会訓令の整備に関する訓令について	
	9	真岡市就労者定住促進奨学金返還支援事業補助金交付要綱の一部改正について	
	10	真岡市立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定について	
	11	令和2年度真岡市一般会計補正予算について	
	12	令和3年度真岡市一般会計補正予算について	
	13	真岡市文化財調査員の委嘱について	

教育委員会報告案件（令和2年度）

会議	報告番号	件名	報告期日
4回	6	新型コロナウイルス感染症の対応について	4月24日
	7	臨時休校中の市内の児童・生徒への学習支援について	
	8	青色回転灯搭載車によるパトロールの実施方法の変更について	
	9	令和2年度学校給食におけるバイキング給食について	
	10	自然教育センターの新型コロナウイルス感染症への対応について	
	11	科学教育センターの新型コロナウイルス感染症への対応について	
	12	令和2年度 移動音楽鑑賞教室について	
5回 (臨時)	13	令和2年度真岡市一般会計補正予算(市長専決処分)について	5月1日

6回	14	令和2年度真岡市一般会計補正予算（市長専決処分）について	5月18日
	15	新型コロナウイルス感染症対策緊急支援奨学金の奨学生募集要項について	
	16	「真岡の夏祭り」への中学生御輿の参加中止について	
	17	子ども議会（小学6年生対象）の中止について	
7回	18	令和2年第3回真岡市議会定例会一般質問について	6月19日
	19	真岡市青少年問題協議会委員の委嘱について	
	20	真岡市男女共同参画審議会委員の委嘱について	
9回	21	いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会について	7月28日
10回	22	令和2年度真岡市教育委員会点検・評価報告書について	8月20日
	23	真岡市男女共同参画審議会委員の委嘱について	
	24	令和3年成人式について	
	25	第25回真岡市音楽祭の中止について	
11回	26	令和2年第5回真岡市議会定例会一般質問について	9月17日
	27	生涯学習推進会議委員の委嘱について	
	28	真岡市青少年問題協議会委員の委嘱について	
	29	公共施設予約管理システムの導入について	
	30	スポーツイベントの中止について	
13回	31	新型コロナウイルス感染者に係る対応について	10月29日
	32	真岡市役所・市内小中学校・市内飲食店を対象とした犯行予告への対応について	
14回	33	令和3年度真岡市奨学生募集要項について	11月19日

15回	34	令和2年第6回真岡市議会定例会一般質問について	12月21日
	35	第1回真岡市小中学校における働き方改革推進委員会の結果報告について	
	36	学校給食センターの整備について	
	37	新型コロナウイルス感染者に係る対応について	
1回	1	GIGAスクール構想について	1月27日
	2	教育国際交流について	
	3	真岡市電子図書館について	
	4	令和3年成人式について	
	5	令和2年度真岡市一般会計補正予算(市長専決処分)について	
	6	真岡市成人式衣装レンタルキャンセル料等助成事業補助金交付要綱の制定について	
	7	新型コロナウイルス感染症に係る対応について	
2回	8	学校給食センター整備事業について	2月16日
3回	9	令和3年第1回真岡市議会定例会一般質問について	3月11日
	10	第2回真岡市小中学校における働き方改革推進委員会について	
	11	GIGAスクール構想について	
	12	真岡市小・中学校児童生徒・保護者意識調査結果について	
	13	学校給食センター整備事業について	
	14	令和3年度学校給食におけるバイキング給食の中止について	

(2) 総合教育会議

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、市長と教育委員会が相互の連携を図り、より一層の民意を反映した教育行政を推進するため、市長が主催する総合教育会議が設置されました。

回数	会議事項	開催期日
1回	・真岡市教育大綱について ・GIGAスクール構想について	9月24日

(3) 研修等

事業名	期日	場所	内容
関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会・研修会	5月28日	群馬県太田市	中止 (新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止となった) 〈予定〉 講演「夢の実現～挑戦することの大切さ～」 講師 古賀 稔彦氏
栃木県市町村教育委員会連合会研修会	11月5日	宇都宮市県庁研修館	講演「新しい生活様式の情報リテラシー ～テレワーク時代に働く子どもたちのために～」 講師 (株)ラック サイバー・グリット・ジャパン副 GM 吉岡 良平氏
芳賀市町教育委員会連合会教育委員研修(先進地視察)	11月25日 ～26日	—	中止 (新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止となった)

(4) 教育委員の学校訪問

学校の現状や教職員の意見等を聴取し、教育行政の充実を図るため、例年、合同訪問に教育委員も同行しておりますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、令和2年度の合同訪問は中止としました。

(5) 教育委員の関係行事等への出席

期 日	主 な 行 事 等	備 考
4月 1日	辞令交付式	
4月 8日	中学校入学式	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から出席者を限定したため、出席せず。
4月 9日	小学校入学式	同 上
9月～11月	小中学校運動会	同 上
10月 1日	市政功労者表彰式	同 上
10月 4日	真岡井頭マラソン大会	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止
11月 8日	真岡市音楽祭	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止
11月17日	真岡市教育祭	
1月10日	成人式	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から延期
2月 4日	立志式	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から出席者を限定したため、出席せず。
3月10日	中学校卒業式	同 上
3月19日	小学校卒業式	同 上
3月31日	辞令交付式	

第2章 点検・評価結果

政策「人づくり」～豊かなこころアップ!～

施策

1. 確かな学力の育成 — 主管課：学校教育課 —
(関係課：科学教育センター)
2. 心の教育と健やかな体づくり — 主管課：学校教育課 —
(関係課：学校給食センター、自然教育センター)
3. 国際化に対応した教育 — 主管課：学校教育課 —
(関係課：生涯学習課)
4. 生涯学習の推進 — 主管課：生涯学習課 —
(関係課：文化課、スポーツ振興課、自然教育センター、科学教育センター、プロジェクト推進室)
5. 青少年の健全育成 — 主管課：生涯学習課 —
(関係課：こども家庭課、学校教育課)
6. 生涯スポーツ・レクリエーションの振興 — 主管課：スポーツ振興課 —
(関係課：健康増進課、社会福祉課、いきいき高齢課、生涯学習課、都市計画課、国体・障害者スポーツ大会推進室)
7. 文化芸術の振興と文化財の保護・継承 — 主管課：文化課 —
(関係課：生涯学習課)
8. 国際交流の推進 — 主管課：くらし安全課 —
(関係課：市民課、学校教育課)

施策評価シート (令和2 年度の振り返り、総括)

作成日 令和3 年 04月 12日

施策 No.	1	施策名	確かな学力の育成
主管課名	学校教育課	電話番号	0285-81-9052
関係課名	学校教育課、科学教育センター		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市内の義務教育課程の児童生徒						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
児童生徒数	人	6,638					

施策の目標	すべての小中学校で、電子黒板やタブレット、デジタル教科書等のICT機器を活用した授業を展開し、学力の向上を図ります。 また、指導する教員は、校務支援システムの活用等により働き方改革を進めることで、子どもに向き合う時間を確保し、教育の質を高めます。
-------	--

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	・児童生徒の学習の定着度をはかるため、とちぎっ子学習状況調査の教科合計平均正答率の県と真岡市との比較差の数値を使用する。 ・小中学校におけるICT機器の活用状況をはかるため、「真岡市ICT教育基本構想」に基づくICT機器導入率等を使用する。
-----------------------------	---

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
小5 とちぎっ子学習状況調査における3教科合計平均正答率の県との差 (国語、算数、理科)	目標値	+0.2	+0.3	+0.4	+0.5	+0.6	+0.7	+0.7
	実績値		実施無					
中2 とちぎっ子学習状況調査における5教科合計平均正答率の県との差 (国語、社会、理科、数学、英語)	目標値	+0.8	+0.9	+1.0	+1.1	+1.2	+1.3	+1.3
	実績値		実施無					
学習用PCの導入率	目標値	人/台	1	1	1	1	1	1 (1人1台)
	実績値		1					
電子黒板の導入率	目標値	%	普通教室・理科室100% 特別支援教室71.4%	普通教室・理科室100% 特別支援教室78.6%	普通教室・理科室100% 特別支援教室85.8%	普通教室・理科室100% 特別支援教室92.9%	普通教室・特別支援教室、理科室100%	普通教室、特別支援教室、理科室100% (各)台
	実績値							
ICT支援員の配置	目標値	回/月	4 (ICTモデル校)	3 (全小中学校)	3 (全小中学校)	3 (全小中学校)	4 (全小中学校)	4 (全小中学校)
	実績値		2.5 (全小中学校)					
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民は、学校・家庭・地域と連携して、人間性豊かな子どもを育成する。 行政は、学力向上を図るための教育環境の整備を推進する。
-------------------------	--

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、とちぎっ子学習状況調査が実施されなかったため、学力に関する成果指標の実績値を把握することができなかった。

参考として、令和元年度の実績は以下のとおり

- ・小5 とちぎっ子学習状況調査における3教科合計平均正答率の県との差：-0.8ポイント
- ・中2 とちぎっ子学習状況調査における5教科合計平均正答率の県との差：+2.34ポイント

であった。小学校5年生については目標値を下回っているが、中学校2年生については大きく上回っており、学力向上についての取組の成果が見られる。

ICT機器の整備については、国の新型コロナウイルス感染症緊急経済対策において児童生徒1人1台端末の整備スケジュールの加速化が示されたことに伴い、令和2年度末までに1人1台のタブレット整備を完了させた。電子黒板については、普通教室・理科室について全教室に整備を完了しており、今後は特別支援教室への整備を進める。ICT支援員の配置についても、1人1台端末の整備に伴い全校へ対象を広げ、年間32回（月平均2.6回）の支援を実施した。

学力向上に向けた令和2年度の取組状況は以下のとおり

- ・児童生徒1人1人の個性を伸ばし、学習効果を高めるため、複数担任制のための非常勤職員を小・中学校全校に配置している。
- ・真岡市学力向上推進研修会や教員研修会を開催し、各学校の検証改善サイクルの構築と教職員の資質・能力の向上を図った。
- ・「教職2～4年目教員支援事業」「学力向上指導員派遣事業」「魅力ある学校づくり事業」等での学校訪問を通して、授業改善に対する助言を個別に行った。
- ・英語の専科教員を小学校5校、算数等の専科教員を小学校3校に配置している。
- ・科学教育センターでは、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、センターでの理科学習は行わなかった。新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う休校中、児童生徒の家庭学習を支援するため、教科書の内容に沿った動画配信および、ネットワーク環境が悪く動画が見られない児童に対しての学習プリントの作成を行った。
- ・学校再開後は、科学教育センター指導主事が学校に赴いて理科授業支援を行った。また、教材器具の貸出及び搬出搬入、自作教材や理科学習指導資料集等を配布し、学校の理科学習環境の整備を図るとともに児童生徒に対し理科への興味・関心を高めるための取組を行った。
- ・学校図書館の充実と児童の読書活動の推進を図るため、全ての小中学校に6名の専任司書を巡回配置し、読書教育の質的な向上に取り組んだ。

令和2年度全国学力・学習状況調査及びとちぎっ子学習状況調査、真岡市総合学力調査が実施されなかったため、令和3年度の調査結果を詳細に分析し、学習の定着度をはかるとともに、学力向上に向けた取組について検討する必要がある。また、整備した1人1台端末のさらなる活用に向けて、高速大容量の通信ネットワークを整備した上で、効果的な活用方法の研究、ICT活用に関する教員のスキル向上を推進し、さらなる学力向上を図っていく必要がある。

(2) 今後の方向性 (1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

令和3年度の全国学力・学習状況調査及びとちぎっ子学習状況調査、真岡市総合学力調査の結果について調査分析し、その結果のフォローアップを重視することで、確かな学力の定着を図り、学力の向上を目指していく。また、学力向上推進研修会や指導主事の学校訪問による授業支援等を行い、教職員の指導力向上を図るとともに、複数担任制のための非常勤職員を配置し、個別指導の充実に取り組むことで、児童生徒の学力向上を図る。

令和3年度からは、事業変更により、科学教育センターでの理科学習は行わず、学校での理科授業の充実と教科担任制に向けて、指導主事を学校に派遣し、理科担当者研修事業を実施する。この事業は、理科担当教員の資質向上と小学校の理科専科教員の育成を図るものである。また、社会科見学の一施設としてプラネタリウムを見学する場合、学校の希望により、理科学習の内容に沿った投影を行う。（学習投影）

ICTを活用した学校教育の推進については、ICT教育推進校とICT導入重点校を指定し、1人1台端末の効果的な活用方法を研究すると同時に、ICT活用に関する教員のスキル向上を図っていく。特に、1人1台端末を効果的に活用した「個別最適化された学習」や主体的・対話的で深い学びを実現するための手法を研究するため、外部有識者を招いた教員研修等の実施や、ICT支援員との連携の強化を図る。今後は1人1台端末のさらなる活用に向けて高速大容量の通信ネットワークを整備し、児童生徒個々の特徴や実態に合わせた、個別最適化された学習を実現し、資質・能力を一層確実に育成することで、さらなる学力向上を図っていく。また、校務支援システム等の活用により、教職員の業務効率化を図り、教員が子どもと向き合う時間を確保し、教育の質的な向上を図る。

施策評価シート (令和2 年度の振り返り、総括)

作成日 令和3 年 04月 15日

施策 No.	2	施策名	心の教育と健やかな体づくり
主管課名	学校教育課	電話番号	0285-83-8181
関係課名	学校教育課、給食センター、自然教育センター		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市内の義務教育課程の児童生徒						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
児童生徒数	人	6,638					

施策の目標	道徳教育や集団活動を通して、生命や人権を尊重する心、人への思いやりの心等を育む。 正しい食習慣や運動習慣を身に付けながら、健やかな体づくりを進め、基礎体力を向上させる。								
成果指標設定の 考え方及び 指標の把握方法 (算定式など)	いじめや不登校等、児童生徒が抱える諸課題の改善状況を図るため、スクールソーシャルワーカーの相談対応により問題を抱えた児童生徒に改善が見られた児童生徒数を使用する。 児童生徒の体力の向上や運動習慣の現状を把握するため、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を使用する。								
成果指標名		単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
相談を受け改善の見られた児童生徒	目標値	人	—	16	17	18	19	20	20
	実績値			14					
新体力・運動能力調査 (80点満点)	目標値	点	49.2	49.7	50.2	50.7	51.2	51.7	51.7
	実績値			実績なし					
「運動が好き」と答えた児童生徒の割合	目標値	%	82.5	83.0	83.5	84.0	84.5	85.0	85.0
	実績値			実績なし					
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								

施策の成果向上に 向けての 住民と行政との 役割分担	市民は、自分の行動に責任をもって、子どもたちに社会のルールを伝え、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむ。 行政は、生命や人権を尊重し、人への思いやりの心や集団生活のルールを学ぶ機会をつくり、運動やスポーツを楽しめる環境を整える。
-------------------------------------	---

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

・スクールソーシャルワーカーの配置については、平成31年度からの事業で令和2年度で2年目となり、多様化、複雑化する児童生徒に関わる問題に対して、専門的な立場から、家庭への働きかけだけでなく、福祉事務所・児童相談所と連絡・連携をとっている。
 令和2年度は、全小中学校への巡回相談、保護者からの電話相談、学校の要請による家庭訪問等を実施し、問題解決のために継続的に関わった児童生徒は34人で、そのうち改善が見られた児童生徒は14人であった。改善には時間を要する事業が多いことや関わった時期が影響したと考えられる。しかしながら、大きな改善が見られ高校進学を果たす生徒もいて、スクールソーシャルワーカーの関わりが功を奏している。

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、実施されなかったため、運動に関する成果指標の実績値を把握できなかった。学校においては、感染症対策を講じながら、「真岡市体力向上プログラム」の実践を行った。また、児童生徒の体力向上指導者研修会を開き、コロナ禍における体育の授業展開について取り扱った。

【参考】令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 49.9点
 「運動が好き」と答えた児童生徒の割合 84.8%

令和2年度の取組

- ・障がいのある児童生徒に対して、学校における日常生活動作の介助や学習活動のサポートを行う特別支援教育相談員を小学校に6人、中学校に2人配置している。
- ・不登校や特別支援教育等に関する相談が増加していることを受け、教育相談の充実を図るため、本市においては、臨床心理士（心理相談員）2名やスクールソーシャルワーカー1名の配置の他、大規模小学校3校（真岡小・真岡東小・真岡西小）には学校支援相談員を配置している。
- ・不登校及び学校不適応傾向にある児童生徒に対し、専門的な指導を行うために適応指導教室（もおかライブリー教室）を設置している。
- ・自然教育センターでは、これまで小学校3年生から（5年生：とぎ海浜自然の家を利用）及び中学1年生、2年生までを対象に、自然の中での集団宿泊体験活動を通して、「心豊かでたくましく生きようとする児童生徒」の育成を目指し各校の創意工夫のもと特色ある活動を実施してきた。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のため、宿泊体験活動は中止となった。そのため、自然教育センター職員が各学校の要請に応じて学校を訪問し、自然教育センター活動プログラムによる体験学習のサポートを行った。
- ・第一・二学校給食センターでは、学校給食を通して、児童生徒の健康の保持増進と食育の推進を図るとともに、健全な発育を促すための給食内容の充実に努めた。

・食物アレルギーへの対応としては、食物アレルギー献立材料表やアレルギー特定物質有無（チェック表）の配布と食物アレルギーにおける「エピペン」使用を含めた教職員研修を実施している。

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、全国体力・運動能力、運動習慣等調査が未実施のため、令和3年度の調査結果を基に、これまでの体力向上の取組を検証するとともに、さらなる対応策を検討する必要がある。
 また、自然教育センターにおいても集団宿泊体験活動を実施できる状況ではないので、コロナ禍においても体験学習が継続できるよう学校のサポートへの仕方についてさらに検討する必要がある。

(2) 今後の方向性 (1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

- ・不登校及び特別支援等に関する相談に、高度で専門的な視点から適切なアドバイスができる心理相談員、スクールソーシャルワーカー、学校支援相談員の配置を継続実施していく。
- ・児童生徒の体力向上に関しては、「真岡市体力向上プログラム」の各校における実践を促すとともに、真岡市体力向上推進委員会(参加者：学校教職員9名、エキスパートティチャ―1名、市教委3名)において、さらなる取組等を検討し展開していく。
- ・障がいのある児童生徒に対し、日常生活動作の介助や、発達障がいのある児童生徒の学習サポートを行うために、引き続き特別支援教育支援員を継続配置していく。
- ・自然教育センターでの宿泊学習は、今年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大のため中止する。しかしながら、児童生徒の体験活動の充実を図るため、令和3年度も自然教育センターの活動プログラムを各学校の状況に合わせて工夫、改善し、より多くの学校で実施できるようにする。また、4月実施の第1回自然教育研究会において、各学校で実施可能な自然教育センターの活動プログラム集を配布し、体験学習の推進を図る。
- ・望ましい食習慣の形成を図るため、学校給食センターの栄養教諭が各小中学校に出向き食育に関する指導を行う。令和3年度は、学校訪問を年間76回、総授業時数14.4時間実施する。
- ・学校給食センターの整備に関しては、児童生徒が心身共に健やかに成長し、安全でおいしい給食を提供するため、令和3年度から2か年で第一給食センター整備基本設計及び実施設計業務を実施し、建替事業を推進していく。
- ・食物アレルギーをもつ児童生徒に食物アレルギー対応食を提供できるよう、新しい給食センターには、食物アレルギー対応専用調理室を整備する予定である。

施策評価シート (令和2 年度の振り返り、総括)

作成日 令和3 年 04月 15日

施策 No.	3	施策名	国際化に対応した教育
主管課名	学校教育課	電話番号	0285-81-9052
関係課名	学校教育課、生涯学習課		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市内の義務教育課程の児童生徒						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
児童生徒数	人	6,638					

施策の目標	<p>社会環境が大きく変化しグローバル化が一層進展する中で、国際的な視野を持ち、豊かな語学力やコミュニケーション能力を身につけた児童生徒を育成します。 また、国籍や文化の違いに関わらず、互いに支え合い共に生きていく力を育みます。</p>
-------	--

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> ・真岡市総合学力調査 (英語) の平均正答率における全国比との差を使用する。 ・全国学力・学習状況調査「英語が好き」と答えた児童の割合を使用する。 ・とちぎっ子学習状況調査「英語が好き」と答えた生徒の割合を使用する。
-----------------------------	--

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
中学2年生の真岡市総合学力調査 (英語) の平均正答率における全国比との差	目標値		-1.3	-0.3	0.7	1.7	2.5	+2.5
	実績値	-2.3	実績無					
全国学力・学習状況調査「英語が好き」と答えた小学5年生の割合	目標値	— (項目なし)	64.0	68.0	72.0	76.0	80	80%
	実績値		実績無					
とちぎっ子学習状況調査「英語が好き」と答えた中学2年生の割合	目標値	59.5	63.6	67.7	71.8	75.9	80	80%
	実績値		実績無					
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<p>市民は、国際的な視野を育成し、相互理解を深めるため、異文化交流の場等に積極的に参加する。 行政は、国際交流や英語教育の充実に向けた環境整備や指導者の人材確保に努める。</p>
-------------------------	--

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、真岡市総合学力調査およびとちぎっ子学習状況調査が実施されなかったため、実績値を把握することができなかった。

参考として、令和元年度実績値は以下のとおり

- ・ 中学2年生の真岡市総合学力調査（英語）の平均正答率における全国比との差：+1.8%
 - ・ 全国学力・学習状況調査「英語が好き」と答えた小学6年生の割合：該当する質問項目なし（※R3年度～項目あり）
 - ・ とちぎっ子学習状況調査「英語が好き」と答えた中学2年生の割合：65.4%
- であり、令和元年度の時点で英語に関する学力が大きく向上しており、「英語が好き」と答えた生徒の割合も増加していることがわかる。

令和2年度からの新学習指導要領全面実施により、小学校5、6年生の外国語活動が教科化となった。それに伴い、令和3年度の全国学力・学習状況調査から児童の英語に対する意識調査の項目が追加されているため、来年度の調査結果から小学校英語教育に関する取組の成果を検証する必要がある。

令和2年度の国際理解教育・英語教育に関する取組状況は以下のとおり。

- ・ 外国語活動支援員 (JTE) および英語指導助手 (AET)、英語指導力向上専門員を活用し、英語教育の充実を図った。
- ・ 外国人児童生徒拠点校に設置されている日本語学級において日本語指導を必要とする外国人児童生徒に対し、2人の日本語指導助手 (ポルトガル語・スペイン語通訳) を配置した。
- ・ 英語検定料・漢字検定料の助成により、英語能力および日本語能力の育成を図った (英語検定料助成対象者：192名、漢字検定料助成対象者：32名)。
- ・ 教育国際交流については、中学校6校で姉妹校を締結済。令和2年度については新型コロナウイルス感染症の影響で海外渡航および受け入れはいずれも中止とした。
- ・ 小学校5～6年生を対象に例年実施しているイングリッシュ・サマーキャンプについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。
- ・ 高校生の海外留学支援については、令和2年度の応募はなかった (令和元年度は9名)。

新型コロナウイルス感染症の影響により姉妹校交流が行えない状況にあり、感染症収束が見通せない状況にあることから、これまで各校が姉妹校と築いてきた関係性の維持向上を図る方策を検討する必要がある。

また、イングリッシュ・サマーキャンプについても新型コロナウイルス感染防止のため事業を中止していることから、感染対策を十分にとった上で事業が実施できないか検討する。

(2) 今後の方向性 ((1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

外国語活動支援員 (JTE) および英語指導助手 (AET)、英語指導力向上専門員の効果的な活用により英語教育を充実させ、引き続き英語力ならびにコミュニケーションの能力の向上を図る。

令和2年度に新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としたイングリッシュ・サマーキャンプについて、令和3年度は感染拡大防止対策を十分にとり開催する。同じく令和2年度中止となった教育国際交流についても、各学校に配備した電子黒板やタブレット等のICT機器を活用し、オンライン等による交流を実施することで国際理解教育を推進する。また、長沼中学校、久下田中学校、物部中学校の姉妹校締結に向けた取組を支援する。高校生の海外留学支援についても、引き続き継続する。

施策評価シート (令和2 年度の振り返り、総括)

作成日 令和3 年 04月 15日

施策 No.	4	施策名	生涯学習の推進
主管課名	生涯学習課	電話番号	0285-82-7150
関係課名	文化課、スポーツ振興課、自然教育センター、科学教育センター、プロジェクト推進室		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市民						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
人口	人	78,874					

施策の目標	市民が生涯にわたり自主的・積極的に学習に取り組み、市民一人一人が学んだことを社会生活に活かす等、生きがいを持って心豊かに生活できるよう、支援の充実を図ります。
-------	---

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する講座数及び参加延べ人数は、生涯学習課、図書館、文化課、スポーツ振興課、自然教育センター、科学教育センター、で行った講座数の合計とする。 ・出前講座数及び参加延べ人数は、生涯学習課での集計結果とする。 ・図書館利用者数及び貸出冊数は、真岡市図書館、二宮図書館及び西分館図書室の集計結果とする。 ・まちのステーション整備は「真岡市新庁舎周辺整備基本計画」の整備スケジュールと事業の進捗状況とする。
-----------------------------	--

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
市民講座数	講座	203	206	210	213	217	220	220
			実績値	99				
市民講座参加延べ人数	人	14,381	14,505	14,629	14,752	14,876	15,000	15,000
			実績値	3,625				
出前講座数 (実施講座数)	講座	173	178	184	189	195	200	200
			実績値	48				
出前講座参加延べ人数	人	4,879	4,903	4,927	4,952	4,976	5,000	5,000
			実績値	946				
まちのステーション整備	-	基本構想策定	事業者募集	契約・設計	設計・建設工事	建設工事	オープン	事業化
			実績値	要求水準書等の公表・事業者募集等				
図書館利用者数 (3施設)	人	241,856	243,485	245,114	246,742	248,371	250,000	250,000
			実績値	133,910				
図書館貸出冊数 (3施設)	冊	287,152	289,722	292,291	294,861	297,430	300,000	300,000
			実績値	236,635				

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・市民は、生涯にわたり自主的・積極的に生涯学習に取り組む。 ・行政は、市民や自主団体の生涯学習活動を支援するため、学習機会や学習の場の提供、学習環境の整備に努める。
-------------------------	---

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

- ・市民・出前講座については、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの講座等を中止したため、令和2年度の実績は大幅に減少している。
 - ・図書館についても、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館等を実施したため、実績は減少しているが、利用人数の減少幅に比べ、貸出冊数の減少幅は小さく、コロナ禍で外出等が制限される中、読書等への需要はむしろ高まっている可能性もあると思われる。また、学習室の閉鎖や利用時間制限等も利用人数が減った理由として考えられる。
 - ・まちのステーション(複合交流拠点)整備については、一部工期の変更を実施したが、事業者選定に向け、要求水準書等を公表し募集等の準備を進めた。
- 生涯学習に係る事業や社会教育施設の運営については、多くの人を対象とするため、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける結果となり、市民に対し継続的な学習機会と場の提供を図り支援するという目標達成は不十分であった。
- しかし、コロナ禍で生活様式が変化中、市民の学習への意欲や需要は高まっている可能性もあるため、こうした状況下においても、少しでも多くの機会と場の提供を図ることが課題となる。
- また、まちのステーション(複合交流拠点)整備については、施設整備のみならず、開設に向け様々な関連業務等の計画準備が必要となる。

(2) 今後の方向性 ((1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

- ・講座等については、これまで対面による実施がほとんどであったが、新型コロナウイルス感染症や高齢化等を鑑み、オンライン、配信等の実施手法を調査研究し、機会の提供を確保していく。また、今後更なるコンテンツ充実のためには、指定管理者や外部委託等の活用も検討していく。なお、対面による講座の開催についても、コロナウイルス感染防止をふまえて1回の参加人数を減らし開催回数を増やす等の対応をして実施していく。
 - ・図書館については、令和3年1月に電子図書館を導入し、令和2年度末でコンテンツ数4,637点、貸出し回数1,378回(令3年1月29日~3月31日)であり、引き続き電子図書館についてPR、充実を図っていく。
 - ・施設運営においては、社会教育施設の多くは築30年以上が経過しており、その機能を適正に保ち安全で快適な施設を提供していくためには、経年劣化に対する修繕やバリアフリー化等の時代に応じた改良が必要であり、今後多くの費用が見込まれるため、令和3年度に実施される「真岡市公共施設再配置計画」の見直しにおいて、施設の集約等についても積極的に検討していく。
- なお、見直しにより、各施設の方針が決まれば、国が推奨している個別計画を作成することが望ましい。
- ・まちのステーション(複合交流拠点)整備については、「遊ぶ・学ぶ・にぎわう」の機能を併せ持つすべての世代の交流の場となる複合交流拠点として令和6年度開館を予定されているが、関係部署との連携を図り、新施設への図書館機能移転や既存施設(二宮・真岡西)を含めた新たな管理運営体制の構築に向け準備を進めていく。

施策評価シート (令和2 年度の振り返り、総括)

作成日 令和3 年 04月 15日

施策 No.	5	施策名	青少年の健全育成
主管課名	生涯学習課	電話番号	0285-82-7152
関係課名	こども家庭課、学校教育課		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市民の未成年 (20歳未満の市民) (各年 4月 1日住基)						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
市内の未成年の数	人	14,223					

施策の目標	将来に夢と希望を持ち、豊かな感性と創造性を養いながら心豊かでたくましい青少年を育成します。
-------	---

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> ・「青少年の不良行為を市が指導した人数」は、指導員等の街頭指導による集計結果とする。 ・「警察に補導された青少年の数」は、真岡警察署が作成した生活安全警察年鑑の非行少年補導状況の数とする。 ・「子ども会育成会加入率」は、小・中学校PTA会員数に占める単位育成会会員数の割合とする。 ・高校生の海外留学支援は累計数とする。
-----------------------------	---

成果指標名	単位	平成30年度基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度目標値
青少年の不良行為を市が指導した人数	目標値	17	16	14	13	11	10	10人以下
	実績値		0					
警察に補導された青少年の数	目標値	105	102	99	96	93	90	90人以下
	実績値		110					
子ども会育成会加入率	目標値	77.2	77.8	78.3	78.9	79.4	80	80
	実績値		73.4					
高校生の海外留学支援 (累計数)	目標値	6	15	24	32	41	50	50人以上
	実績値		15					
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・市民は、地域において青少年の健全育成の環境整備に努める。 ・行政は、地域と共に青少年の健全育成を図るための支援や青少年を取り巻く環境の整備に努める。
-------------------------	--

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

・青少年の不良行為を市が指導した人数は、令和2年度目標値15人に対し、無しであった。新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言措置による不要不急の外出自粛の影響等と指導センターのパトロールの時間帯が午後2時から午後7時であることも理由として考えられる。その一方、警察に捕導された青少年の数は、令和2年度目標値102人に対し、110人と微増している。内訳は、70% (77人) が深夜徘徊、20% (22人) が不良交友での捕導となっている。

・子ども会育成会加入率は、令和2年度目標値77.8%に対し、73.4%であった。児童生徒数の減少に伴い、単子子ども会育成会数も減少 (平成30年度126単位⇒令和2年度122単位) したことや、共働き世帯の増加に伴う保護者の負担増、新型コロナウイルス感染防止対策のため、市子ども会育成会事業が中止となったことなどが要因と考えられる。

・平成30年度から実施している多様な分野でリーダーシップを発揮できる人材育成のため高校生の海外留学支援事業は、令和2年度目標値15人に対し、計画どおり15人であった。ただし、令和元年度は9人、令和2年度は0人であり、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外への渡航が制限されたことが要因と考えられる。新型コロナウイルス感染症が収束しない限り、安全な海外渡航が担保されないため、留学支援に対する在り方が課題となる。

平成30年度 真岡市中学生リーダー研修において海外留学をした高校生と中学生が交流、意見交換をした。

令和元年度 「真岡っ子をみんなで育てよう公演会」の1部において市内小学生・中学生とその保護者を対象に高校生海外留学体験発表会を実施した。

令和2年度 いちごテレビで令和元年度の高校生海外留学体験発表会を放映した。

(2) 今後の方向性 ((1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

・青少年の非行防止は長期的展開が重要であり、指導員等による街頭巡回を継続実施するとともに、学校、警察等関係機関などの関係者と協力して青少年を見守り、指導していく体制の強化に努める。また、人生のうちでもっとも大切な人間形成期における家庭教育の重要性を認識し、積極的に子育てを考えていくために、引き続き家庭教育学級・思春期学級を開設し、子育ての不安解消に努めるとともに、家庭教育通信を発行し、啓発活動の推進を図る。

・子ども会育成会活動を活発にするため、市子ども会育成会連絡協議会と連携し、保護者や子どもに対する研修会を実施するとともに、加入促進のため、広報紙を作成し、学校を通して配布するなど引き続きPR活動を行う。また、市子ども会育成会連絡協議会において、各地区子ども会育成会で実施している紙団祭、卒業生を送る会などの事業内容や方法等の意見交換を行い、情報の共有化に努める。また、参加者が少なく、単子子ども会では実施できない事業の合同開催など、事業の持ち方について検討する。

・コロナ禍において海外留学に行けない状況が続いているが、安全が確保され、海外に渡航できる状態になった際は、留学希望者が増加することも考えられるため、募集掲載や近隣高等学校に申請書を送付するなど引き続きPR活動に努める。なお、新型コロナウイルス感染症が長期化し、海外渡航が制限されることも想定し、オンライン留学に関する支援なども視野に入れ、他市の状況を調査していく。

施策評価シート（令和2 年度の振り返り、総括）

作成日 令和3 年 06月 15日

施策 No.	6	施策名	生涯スポーツ・レクリエーションの振興
主管課名	スポーツ振興課	電話番号	0285-84-2811
関係課名	健康増進課、社会福祉課、いきいき高齢課、生涯学習課、都市計画課、国体・障害者スポーツ大会推進室		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市民						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
人口	人	78,874					

施策の目標	市民一人一人が、自主的にスポーツ・レクリエーションを行うことにより、心身ともに健康で活力ある生活を実現できるようにします。
-------	---

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法（算定式など）	<ul style="list-style-type: none"> ・市体育施設の施設ごとの利用人数を集計することにより、年間延べ利用者を把握する。 ・何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合は、市民意向調査の「行っているスポーツ・レクリエーション」を使用する。
----------------------------	--

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
市スポーツ施設利用者延人数	目標値	人	575,625	584,500	593,400	602,200	611,200	620,000
	実績値			364,983				
何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合	目標値	%	55.5	56.4	57.3	58.2	59.1	60.0
	実績値			60.3				
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民はスポーツ・レクリエーションを自主的に行い、日頃から体を動かすよう心掛けます。行政はスポーツ・レクリエーション活動の機会の提供と、施設等の環境整備の充実に努めます。
-------------------------	--

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

- ・スポーツ施設利用者については、健康志向の高揚によりスポーツの関心が高くなっているものの、コロナ禍のなか令和2年度の利用者延人数の目標584,500人に対し、約365,000人であった。新型コロナウイルス感染防止対策として、施設の休館や利用制限等を行った影響から大きく利用者が減少したと考えられる。
- ・何らかのスポレクを行った市民の割合が、目標値を大きく上回る60.3%となったのは、コロナ禍で密を回避できる手軽に行えるウォーキング、ハイキングなどが増えたことによるものと思われる。

(2) 今後の方向性 ((1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

- ・新型コロナウイルスの収束が見通せない状況のなか、コロナ禍の前のような社会情勢に戻るまでは、目標達成は難しい状況であるが、感染症対策を徹底し利用者が安全安心に利用できる環境を整備していく。
- ・子育て世代には、子どもと一緒に参加できる教室を開催し、スポーツ・レクリエーションに取り組む機会を増やす。
- ・子どもの頃からいろいろな機会ですポーツに触れ、親しむことが必要であることから、スポーツ少年団活動の支援の充実を図っていく。
- ・スポーツ・レクリエーション活動の拠点となる総合運動公園の施設整備を推進していく。

施策評価シート（令和2 年度の振り返り、総括）

作成日 令和3 年 04月 15日

施策 No.	7	施策名	文化芸術の振興と文化財の保護・継承
主管課名	文化課	電話番号	0285-83-7732
関係課名	文化課 生涯学習課		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	1) 市民 2) 文化財の管理者・継承団体等						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
人口	人	78,874					
指定・登録文化財数	件	226					

施策の目標	文化芸術活動の推進により、市民だれもが文化芸術に触れ親しみ学ぶ機会を拡充する。 文化財の適切な保存管理と伝統文化の継承をする。
-------	--

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法（算定式など）	文化芸術活動推進について ・市民会館利用者・市民会館利用人数は、指定管理者月例報告より把握する。 ・文化協会会員数は、総会時加入団体から報告された人数。 ・久保記念観光文化交流館美術品展示室と久保資料室の合計入場者数とする。 (文化財の保護・継承については、指定・登録文化財や地域の伝統文化など既にあるものを保存継承していくことが目標であるため、総合計画策定において個々の成果目標は設定されなかった。)
----------------------------	---

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
市民会館利用人数	目標値	89,068	90,856	92,642	94,428	96,214	98,000	98,000
	実績値		15,657					
文化協会会員数	目標値	2,130	2,144	2,158	2,172	2,186	2,200	2,200
	実績値		1,975					
文化協会加入団体数	目標値	131	131	133	135	137	140	140
	実績値		118					
久保記念観光文化交流館 美術品展示室入場者数	目標値	16,553	17,242	17,931	18,620	19,309	20,000	20,000
	実績値		2,909					
久保記念観光文化交流館 久保資料室入場者数	目標値	17,138	17,710	18,282	18,854	19,426	20,000	20,000
	実績値		3,137					
まちかど美術館入場者数	目標値	2,579	2,661	2,748	2,832	2,916	3,000	3,000
	実績値		386					
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	・市民は、自ら積極的に文化芸術に興味を持ち活動する。地域の歴史や文化への理解を深め、文化財を保護継承することの大切さを認識する。 ・行政は、文化芸術活動の企画運営、環境整備を行う。また、文化活動を担う人材、文化団体の育成支援を行う。文化財所有者（管理者）等が実施する保存管理や事業について指導助言を行い、文化財の保護や啓発機会を提供するための環境を整備する。
-------------------------	--

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

- ・市民会館利用者や、美術館入場者数等文化芸術活動を行った市民は、令和2年度はいずれも大きく減少した。新型コロナウイルス感染防止対策として市民会館や美術館等利用休止期間があったことや文化祭ホール部門や真岡市音楽祭をはじめ、各種イベントの中止が影響したと考えられる。
- ・市民だれもが文化芸術に親しむための環境づくりが必要である。
- ・文化協会については、従前より価値観の多様化や、高齢化の進展により団体数会員数が減少傾向であったことに加え、コロナの影響により団体の解散、及び文化協会退会が相次いで生じた。
- ・文化協会を含め文化団体への支援や活動の情報発信が必要である。
- ・文化財啓発事業では、コロナの影響を受け文化財めぐりについて、2回中1回中止となった。歴史教室は延期や人数制限はあったが計画どおり6回実施し、来場できなかった方等や、傾向として若い方の参加が少ないのでこれらに対応として、歴史教室講演会を自前で撮影し、真岡市公式ユーチューブにより動画配信するとともにホームページに資料データを添付するなどの対応を実施した。
- ・無形民俗文化財保存育成事業では、コロナの影響により本来の事業はできなかったが補助対象の15団体とも、用具の手入れや練習に務め維持継承を図っていた。
- ・指定文化財修繕支援事業では、県補助事業を活用し太子の笠松養生棚交換工事、金鈴荘数居鴨居及び金張り類の修繕を実施し、また、令和3年度の保存事業実施に向けて、国指定文化財の大前神社の防犯設備設置、専修寺の楼門全解体修理の国への補助要望書を提出し内示を得た。市指定文化財2件の修繕については予算付けがなされた。
- ・国指定文化財桜町陣屋跡では今後国の補助を得て、水路や陣屋の修繕を図ると同時に更なる活用をするため、国庫補助事業により令和2・3年度継続事業：桜町陣屋跡保存活用計画策定事業を実施中である。
- ・市の文化財活用では、金鈴荘、尊徳資料館、桜町陣屋跡の一般公開、久保講堂の貸館が主であるが、コロナの影響により各施設とも大幅に入館者等が減少した。一方、金鈴荘では、テレビドラマ撮影が2件あり、例年より長い期間撮影会場となった。また、桜町陣屋跡の報徳田において市民を対象に田植え・福刈り等を実施し史跡の活用を図った。
- ・文化財の情報発信をするとともに、文化財への理解を深める必要がある。

(2) 今後の方向性 ((1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

- ・市民会館については、より魅力ある自主事業や映画会等が開催できるよう指定管理者と連携を図るとともに、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じ、安心して多くの発表会やイベントに利用されるように努め舞台芸術の振興を図る。
- ・文化協会の活動内容を未加入団体へ周知するとともに、文化協会のホームページを拡充し各団体の活動内容や会員募集案内を掲出するなど、付加価値を高めていく。
- ・久保記念文化観光交流館美術品展示室・久保資料室については、魅力ある企画展やワークショップの開催等により来場者を増やす。
- ・まちかど美術館については、魅力ある企画展の開催のほか、各種市民団体等へ個別に市民ギャラリーの利用促進を図り、来場者を増やすだけでなく、訪れた人が市内の施設を回遊できるよう、久保記念観光文化交流館等の施設と連携を深める。
- ・文化財の啓発については、高校生を含めた若い世代への参加アプローチ強化と、昨年に引き続き歴史教室の動画配信をするなど、多様な受講を進める。
- ・国指定文化財の大前神社、専修寺、桜町陣屋跡については毎年10年間の修繕要望を取りまとめ、県に報告するとともに市の大型プロジェクトとして取り扱い、事業費の平準化を図り、確実な実施に努め、保存継承していく。国指定文化財以外の指定文化財については、修繕等要望の事前相談などお通して、助言・指導に努め、地域内の合意形成を促すと同時に県、市の予算獲得を図り修繕の実施を実現し、保存継承をしていく。
- ・市有文化財活用では、金鈴荘においては、令和3年度・4年度にかけて国庫補助新庁舎周辺整備金鈴荘再整備事業を実施し、周辺施設へのアクセス通路と安全性の確保を図り、利便性と集客アップを図る。尊徳資料館を含めた桜町陣屋跡では、3年度策定が完了する保存活用計画に従い、改修事業やイベント事業を推進し、来館者、参加者の増加を図る。また、今後もフィルムコミッション等に協力し、メディアへの露出増加による知名度向上を図って行く。

施策評価シート (令和2 年度の振り返り、総括)

作成日 令和3 年 04月 15日

施策 No.	8	施策名	国際交流の推進
主管課名	くらし安全課	電話番号	0285-83-8719
関係課名	くらし安全課、市民課、学校教育課		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市民 (在住外国人住民含)						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
人口	人	78,874					
外国人住民数	人	3,480					

施策の目標	外国人住民と日本人住民が国籍や言葉の壁を越えて、主体的に国際交流を深め相互の生活習慣や文化を理解、尊重し合い、共に地域社会の一員として安心して暮らせるまちとなっています。
-------	---

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流を行っている市民の割合は、市民意向調査を使用する。 姉妹校締結中学校数は、締結校数とする。 国際交流を行っている団体数は、国際交流協会の団体会員、及び交流活動に参加した団体数とする。 外国人相談件数は、外国人相談窓口や電話等での相談件数とする。(1人で複数の相談あり)
-----------------------------	---

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
国際交流を行っている市民の割合	目標値	14.0	14.2	14.4	14.6	14.8	15.0	15.0
	実績値		13.1					
姉妹校締結中学校数	目標値	6	6	6	6	6	9	9
	実績値		6					
国際交流を行っている団体数	目標値	20	21	22	23	24	25	25
	実績値		10					
外国人相談件数	目標値	7,222	7,277	7,333	7,388	7,444	7500	7,500
	実績値		3,774					
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<p>市民の役割：国際理解に努め、積極的に国際交流に関わります。</p> <p>行政の役割：国際交流を行う団体との連携を図り、交流の場を拡充します。 多言語による相談体制を充実させ外国人住民が安心して暮らせる環境を整備します。</p>
-------------------------	---

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

住民である外国人と日本人が、相互の生活習慣や文化を理解・尊重し、安心して暮らせるよう交流の機会を設けるとともに、多言語による相談体制を維持してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった事業があった。

- ・「国際交流を行っている市民の割合」や「国際交流を行っている団体数」が減少。要因としては、国際交流協会が実施してきた「いちご狩り」や「イヤーエンドパーティー」、「外国料理教室」等10事業が、新型コロナウイルス感染症拡大により、全て中止になったことが大きく影響したと考えられる。交流事業は、相互理解を深める大切な機会であり、コロナ禍でも交流の場が持てるよう検討が必要である。
- ・「姉妹校締結中学校」6校は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、海外渡航、及び受入は中止となった。
- ・「外国人相談件数」は、大きく減少したが、今後、新型コロナウイルス感染症に関する相談は増加が予想され、多言語による相談体制を維持していく必要がある。また、令和2年度から簡単な相談については、翻訳機を活用し対応している。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響を大きく受けることとなったが、国籍、言語、文化の異なる外国人同士が相互に理解を深め、共に安心して暮らせるよう、多言語による相談体制の充実を図るとともに、将来の国際交流を担う人材を育成するため市内中学校の姉妹校交流を推進する必要がある。

(2) 今後の方向性 ((1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

- ・「協会ニュース」の発行やSNS等を活用した最新情報の発信により、日本人、外国人の相互理解を深める。
- ・新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、外国人相談の需要、必要性が高まると考えられ、引き続き多言語の通訳相談員による外国人相談窓口の充実及び翻訳機の活用に努める。
また、オンラインによる事業などを取り入れ、交流の機会を確保する。
- ・現在、外国人との関わりのない市民についても、学校や子供を通じた関わり買い物やスポーツお祭りなど様々な機会に関わることを想定し、協会事業への参加、協力を呼びかけていく中で理解、関心を高める等、具体的な取組みを今後、検討していく。
- ・姉妹校未締結の長沼中学校、久下田中学校、及び物部中学校の締結に向けた取組を支援する。

真岡市荒町5191番地

真岡市教育委員会学校教育課

電話 0285-83-8180

FAX 0285-83-4070